

十六夜の女

中野
劇団

十六夜の女

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

女 (シユク)

ゲザイ

腸壁

女が腸壁にはべっている。

女 腸壁様。このシユクがずっとこうしてお側そばにいることを、お許し

いただけますか。

腸壁 好きにすればいい……。

ゲザイ登場。息を切らせている。片膝をついて座る。

女 誰？

ゲザイ そなたをここから連れ出しに来た！

女 私を……？

ゲザイ そなたが出てくるのを待っている人がいる！ 彼女はずっと苦しんでいる！ 今も！

女 私の……せい？ ごめんなさい、動けないの。

ゲザイ そなたはこんな所に留まっついてはならぬのだ。

女 どうして？ どうしてここにいちやいけないの？

腸壁 何だ貴様は。

ゲザイ この者を解放せよ！

腸壁 断る！

ゲザイ ならばこの身溶かしてでも。フン！

ゲザイ、術を使う。轟音が響く。腸壁、ダメージを受けて悶える。

※腸壁とゲザイのやりとりを足す。

腸壁 (苦しみ) ぐあああああああ。

女 腸壁様！ (ゲザイに向かつて) 一体何をしたの？

ゲザイ 蠕動を強制した。

腸壁 貴様!? ゲザイか！

ゲザイ いかにも！ 我が名はコーラック！ 秘めたるを正す者なり！

腸壁 ござかしい！ ござかしい！

ゲザイ この者を誑かし、留め置いた！

女 私がここにいられなくなるようにしたのね。

腸壁 あの女め！ こんな奴の力を借りるとは。

ゲザイ あの女？ 主の分身たるおまえが。

腸壁 黙れ。その忌々しき躑躅色の出で立ちで気づくべきであった……。

女 腸壁様！ 私をお取り込み下さい。

腸壁 おまえに最早用はない。去れ。

女 何故!? 私はこの身全てを捧げる覚悟で！

腸壁

自惚れるな。

女

ですが、彼女が私を必要と——

腸壁

なれの果てめが。貴様の代わりなどこれから幾らでもやって来るわ。

ゲザイ

ここを出るんだ。

女

どうしてここにはいけないんですか！

腸壁

まだわからないのか。あの女を苦しめている張本人なんだよおまえは。

女

!? ……私はもう必要ない存在なの？ 私は彼女に求められたから、ここにいるんじゃないの？

ゲザイ

今のそなたはその頃のそなたではないのだよもう。ここにいてはならぬのだ。

女

……私が彼女を苦しめてる。

ゲザイ

……。

女

……棄てられるのね。私。

腸壁

……。

女 外に出たら、私、死ぬんでしょ？

ゲザイ 死にやしない。

女 私は、生まれるの？

ゲザイ 違う。似ているが違う。

腸壁 ふははははは！

女 腸壁様？

腸壁 茶番よのう。茶番よのう！ おまえには死もなければ生もない。かつて命と呼ばれしものの再結合体、リユニオンに過ぎぬ。たとえその体がバラバラになって滅びようとそれはおまえの死を意味しない。何故なら、おまえには死など存在せぬのだから！

!!

ゲザイ だが誤解をするな。そなたは確かにここに存在してるのだよ。

……意味はあるのだ。

女 ……。

ゲザイ ……この回廊を進めばその先に門がある。アスタリスクと呼ぶ者

もいる。その門をこじ開け、外界へと出るのだ。

女 駄目。行きたくない。外の世界に出たら嫌われるもの。絶対に嫌

われる。彼女にも。きっと忌み嫌われる！ だって、私は穢れた

存在なのだから！

ゲザイ 彼女はそなたが出て来てくれれば、きっと喜んでくれる。

女 ホントに？

ゲザイ ああ。

女 ……（立ち上がり）わかりました（行きましよう）。

腸壁 躑躅色の小さき者よ。一つ言っておこう。貴様のような者に頼り

続ければ、いつしかその力も効かぬようになるぞ。

ゲザイ ……。

女 ……外に出たらその後には私はどうなるの？

ゲザイ 運命の川へ身を任せ、流れ着くままに。

女 ……。

ゲザイ さあ行こう。光の差す方へ。

ゲザイ、女を連れて退場。

ゲザイ声 かいもーん！ かいもーん！

打ち鳴らされる鐘。巨大な扉が開く音。溢れる光。終わり。